



華谷和生の ④ ツアー日記 JEU DE PAUME

ジュ・ド・ポーム

松山市在住のプロテニスプレーヤー華谷和生がテニスツアーを通じて、見たことや感じたことをレポートします。

profile 華谷和生(はなたに・なぎ)
プロテニスプレーヤー。1995年生まれ。愛媛県松山市在住。2014年四国初のWTAランキングプレーヤーとしてプロツアーに参戦。2018年4月より、正式にプロフェッショナルとして活動開始。三浦工業所属。
<https://www.facebook.com/nagihanatanitennis/>



能登和倉オープンレセプション。選手も地元の和太鼓に参戦!

ITFツアーで初のベスト4入り プレーを観て楽しんでもらうことが プロとして最も大切なことだと実感

Nagi Hanatani

秋…アジアでのWTA(女子テニス協会)ツアーシーズンです。日本では東レ・パンパシフィックオープンとJapan Women's Openが開催され、多くのトップ選手が出場します。

東レPPOでの大坂なおみ選手の活躍は、USオープンの優勝に続いて、日本のテニスを輝かせてくれました。

このWTAツアー大会と並んで、ITF(国際テニス連盟)16大会(*2018年)が日本でプロテニスツアートーナメントとして開催されています。

3月半ばから、横浜・豊田・甲府・柏・大阪にて賞金総額2万5000ドル、4月末からは岐阜(8万ドル)・福岡・久留米(6万ドル)・軽井沢(2万5000ドル)が開催。夏は、8月下旬につくば(2万5000ドル)・能登和倉(2万5000ドル)、そして10月は静岡にて、牧之原・浜松(2万5000ドル)などの大会が開催されます。これらの大会はランキング100番台の選手も含めて、多くの選手が国を超えて集まってきます。

それぞれの地域、企業の支えがあり、また大学の運営による大会もあります。

そのような大会のひとつに、「セキショウ国際女子オープン」があります。



セキショウ国際オープンテニス 準決勝フォトセッション。ザンカイリン選手(中国)と

茨城県つくば市で開催されるこの大会は、今年の8月に32年目を迎えました。

大会の運営に、なんとメインスポンサー企業の社員の皆さまが、携わっていらっしゃるようです。取り仕切るディレクター、広報、イベントの開催、観客の案内、果てはコート整備にいたるまで、細やかに動いてくださっていました。

大会運営は社員研修を兼ね、地域貢献も目的に32年続けてこられたと伺いました。つくばの低年齢ジュニアの大会も同時開催、週末は各種イベントもあり、地元の方々に楽しんでいただけた素晴らしい大会でした。

会場は木々に囲まれた公園。観客席にシートの屋根で日陰を作り、袋入りの氷を配ってくださるなど、暑さ対策の工夫もGOOD!

選手はもちろん、観客の方々の視点からも、とてもすてきな大会であったように感じました。

さて、この大会では私は初めて、シングルベスト4に入ることができました。

予選からの出場でしたが、準決勝では特に、たくさんの応援をいただきました。決勝に進めず、残念な思いもありましたが、「華谷がんばれー!」といったご声援をいただいたときには体の中から奮い立つものを感じました。

昨年の愛媛国体もそうでしたが、プレーを観ていただけること、応援をいただけること、観客の方々の心に残るものがあること……プレーヤーとして一番の喜びです。自分自身のためにプレーする、という姿勢は選手としての根源です。しかし、プレーを観ていた



ポスターに起用していただき、「世界へ」でモチベーションUP!

だき、共に楽しんでいただく、ということはプロテニスプレーヤーとして、最も大切なことだと感じています。

2018年はプロフェッショナルプレーヤーとして、活動を始め、WTAの大会も経験する、という新しい階段を上がった年でした。

成長することの楽しさ、未熟なことへの悔しさ……この2つをもっともっと数多く経験し、さらなる飛躍を目指したいと思います。

愛媛に最も近い、広島で開催されるJapan Women's Openの出場は来年の目標の一つです。もしお近くにいらっしゃる機会がございましたら、ぜひ、会場にて、じかに選手たちのプレーに触れていただければ最高にうれしいことです。

目標に向かって、日々歩み続けます。

タイトルの「JEU DE PAUME」は、中世ヨーロッパ・フランスの貴族の遊技として行われていた球技のこと。現在のテニスの起源と言われています。歴史も含めて、たくさんの方にテニスが広まりますようにと願い、ネーミング。